

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	松井 利康
所属機関名	獣医学部 獣医学科
職位	教授
在籍年	7 年

教育の責任

獣医学部の基礎獣医系科目の担当教員として、学部 1・2 年次の解剖学分野に関する教育を主に行っている。これらの科目は、高次学年の学修において基盤となる知識・技能であり、解剖学の関連知識に基づいて動物体を理解・説明できる力を養うことに教育の責任を負っている。

教育の理念

学生が、動物体の正常構造について正確な知識を持ち、その知識を適切に組み合わせることで、他者に系統立てた説明や疾患の基礎を理解できる力を身につけることを目指している。

講義では、動物体の構造を系統立てて学修することで、動物体の階層性を肉眼～細胞レベルで理解し、他の関連科目の知識と連携できるよう授業に努めている。とくに解剖学分野では、肉眼解剖学、組織学、発生学といった様々な視点からの講義があり、その内容を疾患と関連付けることで、多面的視点から解剖学的事項を理解するよう学生に求めている。

実習では、学生はキーワードとなる項目に沿って動物を解剖、またはプレパラートを顕微鏡観察することで、座学の知識と実物とを関連付けて確認していく。その際には正確な知識に加えて、動物の種差・個体差も考慮した観察が必要となり、知識を応用した理解が求められる。また実物標本は、様々な構造が相互に関係して存在するため、各構造に関する知識を系統立てて統合し、学生自身で解釈する学修姿勢が身につくと考えられる。

教育の方法・方針

上記の教育理念に基づいて、私の講義・実習では「解剖学的知識の正確かつ多面的視点からの理解」、「動物体の構造を実物に基づいて理解し、自身の言葉で説明できる」を教育方針として、その方針に沿った方法を実施している。

方針 1 「解剖学的知識の正確かつ多面的視点からの理解」

方法①：講義資料および解説において、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムのキーワードを明示し、学生が解説事項の科目内での位置づけを理解できるようにしている。

方法②：講義にワークシートや練習問題を用いた振り返り学習を取り入れ、アクティブラーニングによる知識の定着を図っている。また中間試験の結果を学生にフィードバックし、学生が到達度を学習過程で把握できるようにしている。

方法③：肉眼解剖学・組織学・発生学の科目間における知識の連続性および臨床的事項との関係を紹介することで、解剖学的知識が高次学年の学修に重要であることを意識付けている。

方針２ 「動物体の構造を実物に基づいて理解し、自身の言葉で説明できる」

方法①：講義資料に模式図や実物写真を多く取り入れており、専門用語が言語的な知識だけでなく、実物構造のイメージと繋がるようにしている。

方法②：実習中の学生質問において、受け答えの中で学生が理解している部分と不明な部分を自覚できるよう促し、能動的に解決できるよう教員の助言を加減している。

方法③：実習において、学生に相互説明を行うよう促し、学んだ内容を学生自身の言葉に置き換えて理解する機会を提供している。

教育の成果

- ・担当科目の授業アンケートにおいて、授業目標を回答者（111名）の36%が「達成できた」、50%が「だいたいできた」と回答しており、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに準じた到達目標を概ね達成できていると考えている。
- ・授業アンケートにおいて、回答者の85%が「分野への理解が深まった」、28%が「他分野との関連性について理解が深まった」と回答しており、解剖学分野の知識習得のみならず、分野横断的な理解に繋がっている様子が見られた。
- ・組織学実習に関する授業アンケートの自由記述では、スケッチ課題を通して座学の知識が実物構造と繋がりを持って理解された様子が窺えた。また実習書を参考に実物スケッチを作成するのが大変であったこと、それにどう対応・解決したか、に関するコメントが複数あり、学生自身で課題解決を行う機会を提供できた。
- ・解剖学実習において、自身の担当した内容について他の学生に説明している様子が見られた。観察が不十分な事項は、教員の助言を受けたのち、学生間で情報を出し合って到達目標を達成できるよう解決に取り組んでいた。

今後の目標

教育を担当する解剖学分野は、限られた学習時間内で膨大な知識を身に付けることが学生に求められる。また伝統的な学問分野の一方、獣医療の進歩に合わせて重要となる事項が変遷する。

それに対応するため、短期的には講義で扱う内容を整理して、その知識が高次学年の学修や獣医療に繋がることを、学生に意識付けるよう資料の作成と解説を行う。長期的には、アクティブラーニングの追加や実習課題を工夫することで、学生が自身で学修上の課題を見つけ、その関連事項を多面的に調べ、解決できることを目指し教育を進める。

根拠資料

シラバス、教材（パワーポイント資料、実習書）、自己学習用の確認問題、中間試験問題、期末試験問題、授業アンケート結果